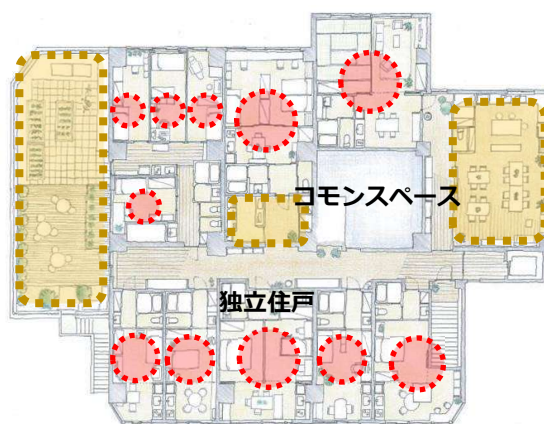


コラム

住宅セーフティネット法に基づく居住支援法人の活動事例
～「特定非営利活動法人コレクティブハウジング社」～

<取組に至った経緯・背景>

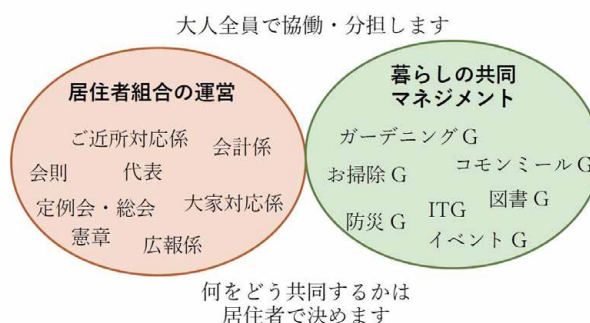
- コレクティブハウジングは、ゆるやかな助け合いの中で、一人でも、歳を重ねても、障害があっても、すべての人が、いきいきと自分らしい暮らしができることを大きな目的としています。自立した個人の自由やプライバシーを守りながら、生活の一部の共同化や空間・設備の共用化により、個人や小さな家族ではできない経済的で合理的な生活と、物理的・精神的に豊かで安らぎと楽しみのある住環境を、居住者自身の主体的取り組みによって作り育てていく暮らし方です。
- NPO法人コレクティブハウジング社（以下CHC）では、自主運営型賃貸コレクティブハウスの事業化に取り組み始めた2000年の設立時から居住支援活動を行っています。これまでコーディネートしてきた都内のコレクティブハウスの大半が十数年経ち、できる限り一人暮らしでコレクティブハウスに住み続けたいという高齢の居住者の方も増えてきました。CHCでは、居住者が公的な福祉サービスを受けながらも自主運営の役割を担い、緩やかな見守りや助け合いの中、できるだけ自分らしく自立的に暮らし続けることができる環境づくりにチャレンジしています。



コレクティブハウスの住まいの形

<取組の内容>

- 各コレクティブハウスは居住者組合によって自主運営されており、CHCはその運営支援を行っています。各ハウスの居住者は、子育て家族、夫婦、多世代の一人暮らしなど多様な顔ぶれで、お互い助け合える信頼関係があり、高齢の居住者の入居中の支援は、コーディネーターであるCHCと居住者組合・各居住者の協力・連携により成り立っています。



コレクティブハウスの自主運営

- コレクティブハウスにおいては、「コモンミール」と呼ばれる共同の食事運営が特徴の一つとなっています。これは居住者が持ち回りで食事（主に夕食）を作り合う仕組みで、ハウスの規模にもよりますが、10～30食程度を共同で作ります。体調や体力的に料理を作るのが難しい方も、それぞれの役割を各自の状態に合わせて担うことができ、そこには何気ない日常の会話も生まれ、社会的つながりを持つことができます。また、顔の見える関係の方々と作ったバラエティ豊かな食事を一緒に食べることができ、孤食が続くことを避けられることから、コモンミールは高齢者の一人暮らしの食を支える大切な要素にもなっています。



- このほかCHCは居住支援活動として、ケアマネージャーとも連携しながら、高齢の入居者をヘルパー派遣や訪問看護、デイサービスなどの公的な福祉サービスにつなげるための支援をし、公的なサービスでは難しい様々な手続きや契約・金銭管理等のサポート、入院時・退院時のサポート等を別途契約の上、行っています。

<取組の効果>

- 既存の住宅を活用した小規模なタウンコレクティブと呼ぶものを含めると、これまでに東京都23区内7棟、多摩地域2棟、群馬県内1棟のコレクティブハウジングを居住者と共に実現してきました。高齢者でも、障害があっても、子育てや仕事で忙しくても、手助けを「する側」「される側」という関係でなく、常にお互いの信頼関係の中に身を置き、できることをお互いで支え合えることがコレクティブハウジングの可能性で、これをさらに地域にも広げていきたいと考えています。
- 一人暮らしの高齢者にとっては、身近に頼ることができる若い世代や活力ある子どもたちとのコミュニケーションによって日々の暮らしに安心と刺激が生まれます。また、若い世代や子どもたちにとっても、身近な高齢の居住者と接することで様々な癒やしや学びがあります。このような、一人暮らしでも安心できる仕組みを生み出し、継続していけるような居住支援活動を行っていきたいと考えています。



執筆協力：NPO法人コレクティブハウジング社